

[国語]

○ 実施時間 【8:30~9:20】(50分)

○ 次の注意をよく読んでおくこと。

- (1) 「始め」の合図があるまで問題用紙を開かないこと。
- (2) 問題は ~ 、23ページまであります。
- (3) 答えはすべて解答用紙の解答欄にはっきりと、ていねいに書きなさい。
- (4) 答えを直すときは、きれいに消してから書きなさい。
- (5) 内容に関する質問は受け付けません。
- (6) 気分が悪くなったり、トイレに行きたくなったりしたら、手をあげて監督の先生に合図しなさい。
かんとく
- (7) 「終わり」の合図があったら、直ちに筆記用具を置き、解答用紙が回収されるまで待っていなさい。
- (8) 解答上の注意
 - ・字数指定のあるものは、句読点〔。、〕および「」や〔〕なども一字と数えること。なお、一マスには一字しか入れられません。
 - ・文末表現は、「こと」、「から」など、問い合わせにふさわしい形にし、文の終わりには句点〔。〕をつけなさい。

受 験 番 号		氏 名	
------------------	--	--------	--

一 次の――のカタカナを漢字に改めなさい。

- ① 国外にボウメイする。
② タイレツを組んで進む。

- ③ ヨウジ教育は大切だ。
④ 新たなリヨウイキに踏み込む。

- ⑤ 船をコガンに寄せる。
⑥ 古いインシユウを打ち破る。
⑦ キョウウリを^{なつ}懷かしく思う。
⑧ テツボウで逆上がりをして遊ぶ。
⑨ 学級委員をツトめる。
⑩ 校庭をジユウオウ無尽^{むじん}に走り回る。

一一次の文章 I・II は、ドイツのエアランゲン市とボームテ市の都市と交通について述べたものである。これを読んで、後の問い合わせなさい。

I 中心市街地の歩行者ゾーンの賑わい

歩きたくなるようなまちは、どうすればつくれるだろうか。この課題は、日本でも近年、健康増進の観点から議論されている。

① エアランゲン市を見ると、中心市街地がまさに「歩きたくなるまち」だ。同市街地のメインストリートの幅^{はば}はおよそ14メートル、長さは1・2キロ程度。そのうち500メートル余りが歩行者ゾーンになっている。同市統計局による2015年の調査では、60%の人が少なくとも週に1回、この歩行者ゾーンを訪れている。「ほぼ毎日」と答えた人は19%だが、このエリアに通勤・通学する人たちがその大半を占めていると思われる。「少なくとも月1回」という人は25%、「たまに」と答えた人は14%である。また、歩行者ゾーンを訪れる時間帯は「午後以降」が多く、たまに来る人ほど「日によつて来る時間帯はばらばら」というケースが多い。

この歩行者ゾーンも含むメインストリートには、^{注1}小売店、郵便局、市役所、銀行、カフェ、レストランなどが並ぶ。中央不動産委員会のレポート「自治体のパートナーとしての小売店」(2017年)によると、市街地の滞留者数は1日平均約7万2400人(2011年)、販売面積数は約10万8200平方メートル(2013年)である。

また、2016年の調査によると、このエリアで「週1回以上」もしくは「月1～3回」買い物をするという人は合計で7割以上いる。一方、レストランの利用者は4割弱にとどまっている。

ともあれ、平日でも中心市街地には人がたくさん訪れており、日本の「疲弊する地方」の光景とはまったく異なる様相を呈している。夜間になると若者が多い印象を受けるが、昼間は^{注2}年齢層も様々だ。

もともと、中心市街地が賑わっているのはエアランゲン市だけに限らない。ミュンヘン市(人口約150万人)やニュルンベルク市(人口約50万人)でも中心市街地には歩行者ゾーンが設置されており、観光地であることから、かなりの賑わいを見せている。

一方、人口1～3万人規模のまちでも中心市街地に歩行者ゾーンが整備されているところも多い。そして、通り沿いには小売店、銀行、飲食店などが並び、さながら日本のショッピングモールのようだ。^(注3)これだけいろいろな店舗が集まっていると、ウインドウショッピングをするだけでも楽しい。ただ、ショッピングモールとは明らかに質的に異なる。その違いについて、以降で紹介しよう。

③ 歩行者優先政策がとられた背景

ドイツにおける歩行者ゾーンの議論は1930年代からあつたが、その議論が本格化するのは戦後に入つてからだ。

中心市街地で歩行者ゾーンの整備が進んだ背景には、自動車と歩行者の摩擦解消や環境問題などの他に、商業施設を誘致して賑わいを取り戻す都市開発が志向されたこともある。さらには、歴史的な建物が密集していることから、歴史的資源を再発見し活用するという側面も挙げられる。

エアランゲン市の歩行者ゾーンは1989年に整備されたが、それ以前は中心市街地には自動車が走り、広場は駐車場になつていた。歩行者ゾーン化の議論が起つたのは1970年代。^(注4)排気ガスによる環境問題やパロツク様式の建物が残る市街地の雰囲気を守ろうというのがその背景だ。

しかし、小売店からはまちから自動車を締め出すと売上が落ちるのではないかと懸念の声があがつた。そうした様々なステークホルダーとの議論と実証実験を重ねて、ようやく歩行者ゾーンの導入が実現された。一方、小売店の売上についてはAに終わつた。次に触れるように、市街地の多価値化が進んだことが、歩行者ゾーン化の最大の効果だろう。

④ 中心市街地の多様な価値が人々を惹きつける

小売店や飲食店が並ぶ中心市街地は、ショッピングモールとどう違うのか。ショッピングモールには人々は消費するために訪れるが、中心市街地を訪れる人々は消費以外の目的で訪れることが多い。そこには劇場やミュージアムといった文化施設も集中し、広場ではコンサート、クリスマスマーケット、ワインフェスティバルなどの催しが行われ、さながら「青空公民館」のような場所とも

いえる。人々は中心市街地に「社交」「文化の享受」「リラックス」を求めてやつてくる。

対して、ショッピングモールにはレストランやカフェもあり、飲食を共にする社交もないわけではないが、「買い物ついで」「ショッピング疲れの休憩」という人が多い。歩行者ゾーンの飲食店には、社交目的で来る人が明らかに多い。

さらに、ショッピングモールとは決定的に異なることがある。市街地ではデモや行進、集会などもよく行われるという点だ。^(注5)いった社会運動は、自治体のイニシアティブ・プログラムであるケースもあれば、市民グループの自主的活動もあり、扱われるテーマも様々だ。とりわけ歩行者ゾーンはヒューマンサイズの空間もある。そこにたまたま居合せた人たち同士で意見・価値・感情を共有しやすい。人々が集まる中心市街地は、情報や意見を発信する一種のメディアのような場所にもなつているのだ。

消費を中心としたショッピングモールと異なり、中心市街地はもともと多様な価値を有している。自動車通行を制限することで、人々は歩きながら様々な価値に触れることができる。^(注6)日本では多くの自治体が「歩けるまちづくり」に取り組んでいるが、単に自動車通行を制限して歩道を拡張するだけでは「歩きたくなるまち」にはならない。「多くの価値が集積してこそ人は歩きたくなる」とを忘れてはならない。

(高松平蔵『ドイツのスポーツ都市 健康に暮らせるまちのつくり方』学芸出版社より)

Ⅱ シェアド・スペースの効果

ボーメテの事例でまず注目すべきことは、信号がなくなり、交差点にはルールが存在しなくなつたにもかかわらず、渋滞が解消され、交通の流れがよりスマーズになつたことだ。これにより、沿道沿いの住民の居住環境は大幅に改善された。

2009年に実施された住民アンケートでも、騒音・大気汚染の減少、渋滞の緩和、歩行者・自転車交通者にとっての道路の品質向上、沿道の居住環境の向上、公共空間の憩いの創出など、すべての項目がシェアド・スペースによって改善されたと評価されている。

シェアード・スペース導入前後の事故に関する調査によると、導入の結果、人身事故は減少した。ただし、とりわけ沿道のレストラ

ン前などで道路脇に車を駐車させる際^{注14}、縁石がないためにバツクで街灯に衝突したり、駐車する車と出てくる車が出会い頭に接^{せつ}触^{しょく}するなどの物損事故が増加し、交通事故件数そのものは増えている。しかし、物損事故の被害総額自体は大幅に減少しており、これは自動車交通が総合的に低速化したためだろう。

また、空間をアスファルト舗装からすべてプロック敷きに変更したため、夜間に高速でここを通過する車の騒音は増大している。しかし、この州道は制限時速50キロメートルの道路であるが、日中、ほとんどの車はこれを大幅に下回る速度で通過するようになつた。時速制限の標識がないにもかかわらず、というよりも、こうした表示がないことが、かえって自動車交通者の不安を増大させ、速度の低下につながつたわけである。

それゆえ、自転車と歩行者による通行は快適なものとなり、1日1・3万台の交通量だった幹線道路は、ある一定のレベルではあるが、社会福祉的な機能を持つ空間へと変化している。

繰り返しになるが、このシェアード・スペースに進入する車には、何一つ特別な情報は与えられない。シェアード・スペースの入口に小さな「優先順位変更」の交通標識が立っているのみである。したがつて、地元住民以外には、何のことかよくわからないままプロック敷きの雰囲気の変わった道路へ進入し、交差点近くに来ると、突然その交差点がこれまでに経験したことのない空間だと気づく。そこで、どのようなルールでそこを通行していいのかよくわからず不安になる。不安は注意力を増大させ、交通スピードを減少させ、他者への配慮^{はいりょ}を生みだす。

ドイツの道路交通法規では、以下ののような基本原則が明記されている。

- ・第1条(1) 道路交通への参加者には^{注16}間断なき注意と相互の配慮を要求する。
- ・第1条(2) すべての交通参加者は、他者に危害を加えない、危機感を与えない、そして可能な限り、障害にならない、負荷を

与えないように行動するものとする。

C 現在の社会は、交通の分離化によって、そうした道路交通法規の基本原則は形骸化し、通常は忘れられてしまつている。シェアード・スペースでは、自動車交通に対して、その基本原則を無意識のうちに強要するのだ。

もちろん、地元の住民やこの道を何度も通つた者は、このシェアード・スペースがどのようなルールで運営されているのかを知るようになる。ただし、そのルールとは、「相互配慮、注意」と「右側通行と前方右側からの通行優先」だけであり、その対象は、歩行者であつても、自転車であつても、車椅子であつても、車であつても、交通参加者であれば皆平等だ。また、他者への配慮がなされていれば、道路での駐停車も許されている。駐停車は、交差点や道路の真ん中であろうとも、法規上の問題はない（ただし、相互配慮しながら、道の真ん中に駐車するのは至難であるうが）。

オランダではシェアード・スペースの導入がかなり進んでおり、ドラハテン市では事故は減少したと報告されている。このシェアード・スペースは世界的にはまだ導入実績が少なく、評価は確定していない。しかし、一般的に欧洲では、^{注19}「懷疑論や否定的な見方はあるものの、概ね好意的に捉えられているようだ。その結果、その定義や実施のレベルは一定ではないものの、2016年までに12カ国、100カ所以上で実施済みもしくは進行中である。

シェアード・スペースの課題

シェアード・スペースの基本原則は、交通事故による訴訟^{注17}の際、これまでの判例に従う法的判断を迷わせる」とが起つたりうる。たとえば、交差点に駐車していた車が事故を誘発^{ゆうはつ}したとする。その場合、すべての交通参加者には優先権がないわけであるから、「どちらがより相互配慮と注意を怠つたか」が法廷^{ほうてい}で争われる^{注20}ことになる。保険の支払いも非常に難しくなる可能性があり、シェアード・スペースを巡る議論は、交通工学者や法律の専門家などの間で今も続けられている。

（村上 敦『ドイツのコンパクトシティはなぜ成功するのか 近距離移動が地方都市を活性化する』学芸出版社より）

※ 原文にあった図表と画像は作問の都合上、省略しました。

- 注 1 小売店……消費者が直接買い物ができる店。
注 2 滞留……長く留まること。
注 3 ショッピングモール……大規模な商業施設。

注 4 ウィンドウショッピング……店頭に並べられている品物を見ながら歩くことで、買い物の気分を楽しむこと。

注 5 誘致……招き寄せる」と。

注 6 バロック様式……十六世紀から十八世紀初頭にかけてヨーロッパ各国に広まった美術・建築・文化の様式。

注 7 懸念……気にかかる不安があること。

注 8 ステークホルダー……企業が活動を行なう際に、利害が関わる人のこと。

注 9 「青空公民館」のような場所……人々が気軽に集まって交流できる、屋外にある場所。

注 10 享受……受け取つて自分のものにすること。

注 11 自治体のイニシアティブ・プログラム……自治体が中心となつて進める計画。

注 12 ヒューマンサイズ……人間の感覚や動きに適合した、適切な空間の規模や物の大ささ。

注 13 メディア……情報を伝達する際に、間をつなぐ手段やもののこと。

注 14 縁石……歩道と車道、歩道と私有地などの境界に置くコンクリート製のブロック。

注 15 幹線道路……全国あるいは地域・都市内において、主要な地点を結び、道路網の骨格を形成する道路。

注 16 間断なき……絶え間がない。

注 17 交通の分離化……歩道や縁石、信号などによつて歩行者と自動車の交通を切り離していくこと。

注 18 形骸化……実質的な意味を失い、形式だけが残ること。

注 19 懐疑……疑うこと。

問 1 ——①とあります、Iで述べられている「エアランゲン市」に関する説明として、正しいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 中心市街地が歩行者ゾーンの導入によつて活気を作り出せた例は、ドイツの都市の中では他になく、非常に珍しい事例となつてゐる。

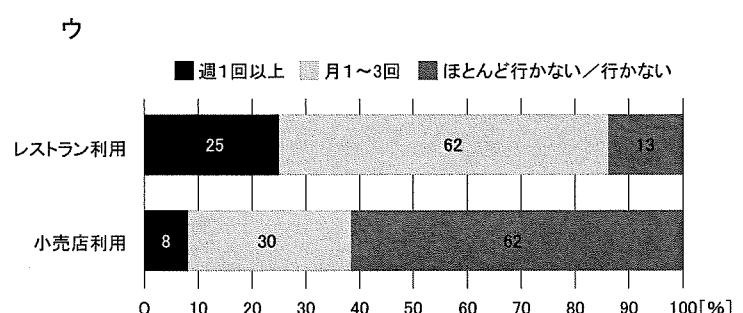
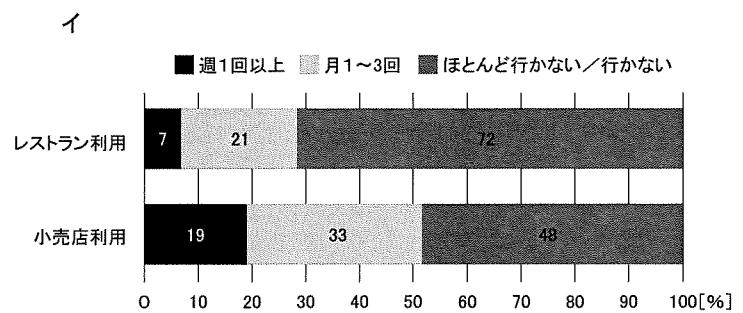
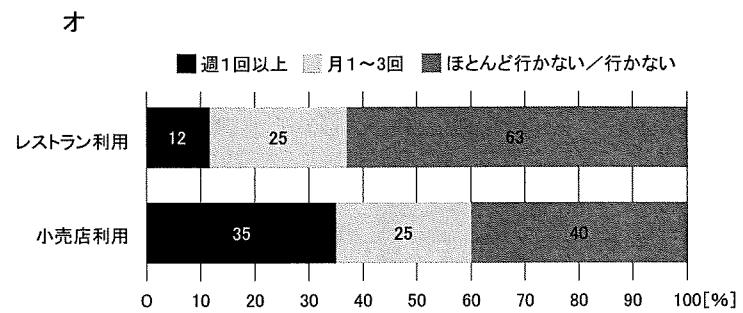
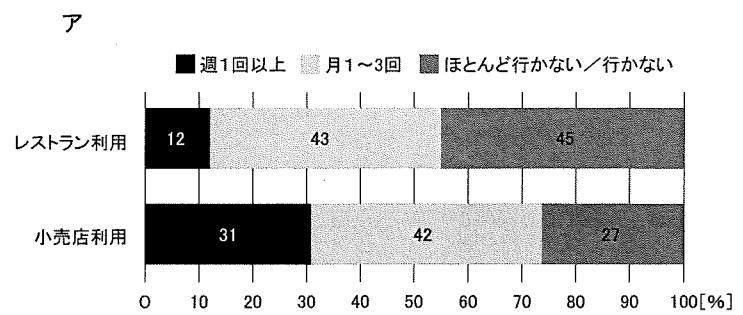
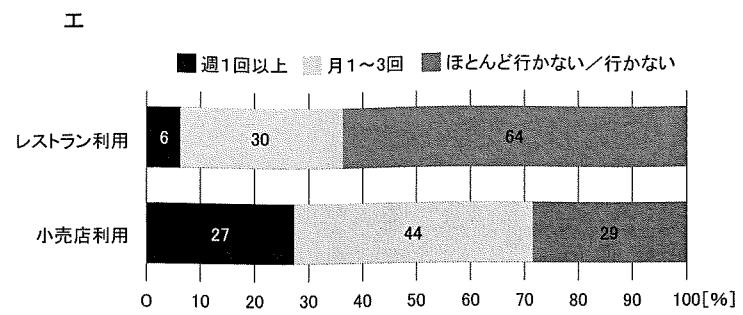
イ メインストリートの幅は約14メートルで、およそ1・2キロの道のすべてが歩行者ゾーンとなつてゐる。

ウ 歩行者ゾーンを「少なくとも月1回」もしくは「たまに」訪れるといふ人は、たいてい午前中に訪れてゐる。

エ 中心市街地には平日でも多くの人が訪れており、昼間は若者が多く訪れるが、夜間は様々な年代の人々が訪れる傾向がある。

オ 2015年の調査によると、半数以上の人人が歩行者ゾーンを「少なくとも週に1回」訪れているといふ結果であった。

②とあります。エアランゲン市民の歩行者ゾーンでの買い物とレストラン利用の頻度を表した図として最もふさわしいものを次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。



問3 ——③とあります、ドイツで「歩行者優先政策がとられた背景」としてふさわしいものを次の中からすべて選び、記号で答えなさい。

ア 駐車場としてほとんど使用されなくなつて広場の有効な活用法の検討が始まった。

イ 自動車と歩行者との間に生じる交通上の問題や、環境問題が発生していた。

ウ 商業施設を招き寄せることで、賑わいを取り戻すという都市開発がめざされた。

エ 小売店の売り上げを上昇させるために、まちから自動車を締め出そうとした。

オ 密集している歴史的な建造物を、歴史的資源として見直して活用しようとした。

問4 Aには「必要のないことをあれこれ心配すること」という意味の故事成語が入ります。入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 蛇足 だきそ イ 杜撰 づせん ウ 断腸 だんちよう エ 矛盾 むじゅん オ 杞憂 きゆう

問5 ——④とありますが、「中心市街地」についての説明として、あてはまらないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「中心市街地」はショッピングモールと異なり、人々が買い物以外の目的で訪れることが多い空間となっている。

イ 「中心市街地」では様々な催しが行われ、人々は交流を楽しんだり、文化に触れたりしている。

ウ 「中心市街地」には魅力的な飲食店が多くあり、ほとんどの人が交流ではなく飲食を目当てに訪れている。

エ 「中心市街地」ではデモや行進、多様なテーマが扱われた集会などの社会運動が活発に行われている。

オ 「中心市街地」は偶然出会った人同士が、情報や意見の交流、または発信を行いやすい場所になっている。

問7 B・Cに共通して入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 例えば イ つまり ウ とにかく エ しかし オ また

問6 ——⑤とありますが、Iの文章において、日本ではどのような観点から「歩きたくなるまち」をつくる議論がなされていると述べられていますか。四字でぬき出し、答えなさい。

問8 ——⑥とありますが、自動車交通者は、なぜ速度を落としたと考えられますか。「シェアード・スペース」の特徴をふまえながら、四十字以内で説明しなさい。

問9 次の表は **I** と **II** の文章をノートにまとめたものです。以下の（1）と（2）の問い合わせに答えなさい。

（1） 表の **Z** に共通して入る言葉として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 無視 イ 分離 ウ 混同 エ 優先 オ 駐車

（2） 表の **Z** X・Y にあてはまる言葉を、指定された字数で本文中からそれぞれぬき出して答えなさい。

I	II
エアランゲン市では中心市街地に「歩行者ゾーン」を設置した。 ←	ボームテ市では道路に「シェアド・スペース」を導入した。 ←
最大の効果は、市街地の X (四字) が進んだこと。 ←	住民からは多くの項目で評価されているが、世界的には Y (四字) がまだ多くないため評価が確定できていない。 ←
「歩きたくなるまち」の実現へ。	現在も議論が続けられている。

【エアランゲン市とボームテ市の取り組みの違い】

エアランゲン市では自動車交通者と歩行者を **Z** することで人々が歩きたくなるまちづくりを進めていたが、ボームテ市はあって歩行者と自動車交通者を **Z** しないことで、交通参加者に他者への配慮をもつて移動してもらう試みを行なっている。

問10 次の生徒A～Eの発言は、**I** と **II** の文章の内容に関するものです。発言の中で本文の内容にあてはまらないものを一つ選び、ア～オの記号で答えなさい。

- ア 生徒A **I** はどうのようにしたら「歩きたくなるまち」になるかについて、**II** は「シエアド・スペース」という空間についての文章だったね。
- イ 生徒B **I** は市街地について、**II** は「シェアド・スペース」について述べられていて、それぞれの調査やアンケートの結果が示されることで、説得力のある文章になっていたよ。
- ウ 生徒C **I** では歩行者ゾーンについて議論が行われたこと、**II** では「シエアド・スペース」について、今でも議論が続かれていることが述べられているね。
- エ 生徒D **I** も **II** もドイツ国内での事例にしぼって紹介していたね。
- オ 生徒E **I** ではエアランゲン市の歩行者ゾーンを歩きたくなるまちづくりの成功例として紹介していたけれども、**II** では「シエアド・スペース」の良い面だけでなく課題も紹介していたよ。

〔二〕次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

英國に住むミアは、金子文子（二十世紀初頭の思想家）の本に熱中している十四歳の少女である。ミアは文子の本の内容が、自分の人生に大きく影響（えいきょう）していることを実感しながら日々の生活を送っている。

ベッドサイドのランプをつけただけのほの暗い部屋の窓から、丸い月が黄ばんだ電灯のような色で浮かんでいるのが見えた。一段ベッドの上からすうすうと規則正しい^(注1)チャーリーの寝息が聞こえる。

不安をかき消すようにミアは再び本を開いた。

いろいろ先のことを想像すると次から次に悪い考えが浮かんできてしまうから、いまはフミコの話に没入^(注2)したほうがいい。

*

朝鮮に着くとまもなく、私は村立の小学校に編入した。三十人ほどの子どもたちが通う平屋の小さな学校だった。祖母はこう言った。
「ふみ、よくお聞き。金子のような貧乏人の子なら勉強ができないかも差し支えないが、かりにもこれからは岩下の子として学校に上がるんだから、そのつもりでしっかり勉強をおし。家柄の下の子に負けたり、私らに恥をかかせたりしたら、すぐ岩下の名を取り上げるから」

岩下という名は、叔父の苗字である。祖母は、叔母にしつかりした相手を見つけて結婚させたが、養子を取るという形は取らず、いちおう岩下の名を叔母に名乗させていたのだ。

① 祖母と叔母夫婦は、広い庭の中についた別棟の一間を私の勉強部屋にした。学校から帰つたら勉強部屋に籠つて1時間は復習するようになっていたので、毎日、私は言いつけを守つて勉強した。

だから、すでにわかっていることや覚えていないことを、何度も何度も復習させられるのは退屈だった。私は9歳の子どもだったのだが、じきにあることに気づいた。私はあまり勉強しなくても、いろんなことがわかつてしまうのだ。まともに学校に通つていなかつた。

「お祖母さん、私、復習なんてしなくても大丈夫だわ」
と言つてみたことがあった。すると祖母はきつと眼を吊り上げて答えた。
「うちは金子のような家とは違うんだから、そんなだらしのないことは許されないよ」
「でも、私、家で勉強なんかしなくて、学校で習う本はもう全部読めるんだもの。あの……、もっと難しい、面白い本を読ませてもらえませんか？」

「生意気なことをお言い不得。本は学校の本だけでたくさんだ」
祖母は A 「こなしに私を叱りつけた。

いつものように勉強部屋に閉じ込められた私は、することもなく窓辺に立ち、格子の向こうに見える遠くの木々を見ていた。野菜畑が広がる庭園の奥には小さな雑木林があつた。みんな同じぐらいの高さの木の中で一本だけ急に突き出た、背の高い木がある。じつとそれを見つめていると、なんだかわけもわからずにせつなくなつて、涙があふれてきた。

あの木だつて、一本だけ高くなりたくてそなつたわけじゃない。他の木々から一つだけ飛び出した姿はとても不格好で、雑木林の調和を乱しているかもしれないけど、望んでそなつたのではない。それなのに、なんだか申し訳なさそうに、そこにしてはいけない木のように孤独に立つてゐる。どこか別の林や、もっと高い木がたくさんある森に立つていたら、あんなに悲しそうにしている必要はないだろうに。

いつまでも感傷的になつていてもしかないので、私は机に向かうことにした。でも、やはりすぐに飽きて、折り紙で人形を作つたり、畳の上で越しきをしたりし始めた。こうして、私は本やノートを広げて勉強しているふりをして、隠れてこつそり遊ぶよう

になった。

ところがある日、祖母がいきなり勉強部屋にやつてきた。私は遊んでいたので、こっぴどく叱られた。以来、祖母は打ちで勉強部屋に来るようになり、そのたびに私は遊んでいたり、窓辺に立つて外を見たりしていた。そのうち祖母は叱ることさえしなくなり、ついに私から勉強部屋と勉強時間を取り上げた。

それが何を意味するのか、私は5年生になつてから知ることになった。私は学校では成績優秀で、4年生の試験でも優等賞を貰つた。だが、5年生になると、なぜか私の通知簿の名前は、金子文子になつていた。

たつた半年の間に、私は岩下の姓を名乗ることを許されない子どもになつてしまつたのだ。勉強なら誰よりもできだし、祖母や叔母に恥をかかせた覚えもない。それなのにいつの間にかもう岩下の家族ではなくなつていた。

つまり、祖母と叔母は、本当に勉強ができる子どもが欲しかったわけではないのだ。あの雑木林の木々のように、他の木と同じぐらいの高さの、ただちよつときれいな葉っぱがついた木が欲しかつただけなのだ。

*

「^{注3}ケイ・テンペストの動画、見る？」

ミアが校庭の榆の木の下でベンチに座つて本を読んでいると、レイラが話しかけてきた。

「有名になつてからノンバイナリーをカムアウトして名前を変えるなんて勇氣ある。ケイトだつた頃から、私たちは人と違つていてもいいんだつて一貫して歌つてきたから、自分もそうしたんだろうね。なんかこの人、すゞく格好いいと思う」

レイラはそう言つて、ミアにイヤフォンを渡そうとしていた。

ミアはそのころんとした白いイヤフォンを耳に入れてみた。レイラがYouTubeの動画を再生し、iPhoneをミアに渡す。ゆるいウェーブのかかつた量の多い長い金髪と空色の瞳が印象的な女性が映つていた。ルックスを見る限りでは、そんなに「違う人」という気はしない。フミコ風に言えば、「^{注4}C」の中に埋もれてしまいそうな、ふうにでもいる感じの人だ。

「これが、ケイ・テンペストって人？」

ミアが尋ねると、レイラが答えた。

「^{注5}これはケイト時代の動画。いまは少年っぽいショートカットになつてて、すゞくかわいい」

ケイト時代のケイ・テンペストは、キーボードの演奏に合わせて詩を朗讀していた。詩の朗讀、にしかミアには見えなかつた。ミアがイメージするラップみたいに体を揺すつてダンスしているわけでもなければ、前かがみで観衆にポーストしているような、挑戦的な感じもない。静かで、淡淡としたパフォーマンスだつた。

私の国がバラバラになつていく、何もかもすべてが失敗だらけの茶番になつていく、お金の心配や仕事や何もかもに潰されそなになりながら、いまにも崩れ落ちてしまいそうだけど友だちみんなに笑いかける、部屋のベッドに寝転がつて眠れない人、泣きながら駅に立つている人……。

^{注11} リリックの内容が断片的に耳から飛び込んできて、ミアがよく知つている風景が次々と頭の中に立ち上がつた。

「^{注12}ビューティフル……」

なぜかミアの瞳に温かい水がたまつてきた。

「でしょ？ この人は私もちょっとすゞいと思う。こんなラップ、聞いたことがない。テレビとかに出でないから、私もウイルがリックを持つてくるまで知らなかつたんだけど」

「ありがと」

曲が終わると、ミアはイヤフォンを外し、レイラに返そとしました。

「もう一曲、聞いてみる？」

レイラはそう言つたが、ミアは首を振つた。^{注13} iPhoneのスクリーンが、そろそろ次の授業が始まる時刻を示していたからだ。ソーシャル・ワーカーやNHSが家に介入してきていたときに、遅刻をして悪い記録を残すこととは避けたかった。

「なんかね、私は前からラップとか好きじやなくて、何クールぶつてんの、この人たち、としか思えなかつたんだけど。この人はいなつて思つた」

校舎に向かって歩き始めたミアを追いかけながらレイラが言った。

「私さ、ダンスを踊つたり、音楽を聴いたりしていると、ああ、これだ、って感じる瞬間^{しゅんかん}が訪れるときがある。何が『これ』なのか、『これ』が何を意味するのかわからないけど。でも、ああ、ようやく『これ』に会えたっていう瞬間^{きみょう}。奇妙^{きみょう}だよね。テンペストのラップにもそれがある」

「……」

『「これ』って何なんだろう』

「……それはたぶん、ソリューションとは違う世界を指しているんじゃないかな」

「え？」

「たぶん、『「これだ』』って感じる瞬間だけ、私たちは、その違う世界に行つてるんじゃないかな」

「……違う世界つて、それ、ソリューション？」

「わからない。わからないけど、それはソリューションではない世界で、自分が本来いるべき場所つていうか、行つたこともないのになぜか知つてている場所……」

ミアはそう答えて口^ダわつた。

たぶん、その知らないのに知つていてる場所に一瞬だけ連れていかれるから、まるで失われた場所を思い出すように「ああ、これだ」と直感するんじゃないだろうか。

さつきの動画を見て、ミアは確かにそういう気分になつた。⁽⁵⁾あのラッパーの言葉は、ミアをその場所に連れていつたのだ。だから目に温かい水があふれてきたのだろう。

言葉には、そういう力がある。

私も私の現実を、誰にも言えない本当のことを、テンペストのラップみたいに誰かの物語として語つてみたい。ミアは強くそう思つた。

(ブレイディみかこ『両手にトカレフ』ポプラ社より)

注1 チャーリー……ミアの弟。

注2 フミコ……金子文子のこと。本文では、文子の本の内容部分は*の記号ではさまれている。

注3 ケイ・テンペスト……英国で活動する詩人・小説家・劇作家・ミュージシャン。

注4 ノンバイナリー……自分の性別を男女どちらにもあてはめようとしない考え方。

注5 カムアウト……ソリューションでは自分が少数者であることを告白・公表すること。

注6 YouTube……インターネット上で動画を共有できるサービスの名称。

注7 iPhone……スマートフォンの名称。

注8 ラッパー……リズムに合わせて早口で歌うラップ音楽の歌手。

注9 ボースト……ラップの中で用いられる自慢するような表現。

注10 パフォーマンス……演奏。上演。

注11 リリック……歌詞。

注12 ビューティフル……英語で「美しい」の意味。

注13 ウィル……レイラの友達。

注14 ソーシャル・ワーカー……ソリューションでは生活相談員のこと。

注15 N.H.S……英国の国民保健サービス。

注16 クール……冷静なさま。

問1 ——①とあります、「祖母と叔母」は、「私」にどういう子になつてほしいと望んでいた、とのちに「私は気づきましたか。

「勉強」という言葉を用いて三十五字以内で答えなさい。

問2 A には体の一部を表す漢字一字が入ります。その漢字を答えなさい。

問3 ——②とありますが、「涙」を別の言葉で言い表している部分を、本文中から五字以内でぬき出しなさい。

問4 ——③とありますが、なぜ「私」は「すぐに飽きて」しまったのですか。理由として考えられるものを次の中からすべて選び、記号で答えなさい。

ア 感傷的になつてしまつた自分が恥ずかしくなつてしまつたから。

イ 私はあまり勉強しなくても、いろいろなことがすぐに理解できてしまうから。

ウ 家で勉強しなくとも、学校で習う本は全部読めてしまうから。

エ 小学校6年生までに学習する内容を、すべて理解してしまつたから。

オ すでにわかっていることや覚えていることを何度も復習させられるから。

問5 B に入れるのに最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 耳 イ 相 ウ 平手 エ 同士 オ 不意

問6 C に入る言葉として、最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 許されない子ども イ 雜木林の木々 ウ 遠くの野菜畑 エ 手入れの行き届いた庭園 オ 岩下の名

問7 ——④とありますが、このときのミアの気持ちの説明として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア ケイ・テンペストの曲に夢中になつて、授業に集中できなくなるのは嫌だ。

イ ケイ・テンペストの魅力をうまく言葉にできない自分が許せない。

ウ ケイ・テンペストの曲はとてもよかつたが、一度聞けば十分だ。

エ ケイ・テンペストの曲をまだ聞いていたいが、ソーシャル・ワーカーに家へ連れ戻されるのは嫌だ。

オ ケイ・テンペストの動画に感動したものの、授業に遅刻するのは避けたい。

問8 ——⑤とありますが、「その場所」とはどのような場所だとミアは考へていますか。四十五字以内で説明しなさい。

問9 本文中の登場人物について説明した次のア～オのうち、正しいものには○を、正しくないものには×をつけなさい。

ア 以前よりラップ音楽を好んでいたレイラは、ケイ・テンペストのパフォーマンスを知ったことで、ますますラップ音楽が好きになつた。

イ 文子は岩下の姓を名乗ることができなくなつた自分に対して大いに失望し、勉強に対する自分の考え方を改めようと決心した。

ウ ミアはケイ・テンペストのパフォーマンスに触れたことで、自分の現実の物語を語つてみたいという思いを強くした。

エ フミコとミアは共に名声を得ることを願いながらも、うまくいかないことを悲しく思つている。

オ ミアとレイラは、ケイ・テンペストの曲の魅力を何とか言葉で表そうとしている。